

審議（会議）結果

審議会等名称

神奈川県水産審議会

開催日時

令和8年 3月26日（木） 16:00～17:00

開催場所

神奈川県庁新庁舎8階 議会第2会議室

出席者

井貫 晴介【会長】

高橋 征人【副会長】

武井 好博

片石 圭介

水上 美弥子

蒲谷 泰延

栗原 信二

櫻本 和美

向井 友花

浪川 珠乃

堀井 豊充

田口 さつき

次回開催予定日

令和9年2月

所属名、担当者名

環境農政局 農水産部 水産課 水産企画グループ 佐藤

## 掲載形式

議事録 別紙のとおり

## 審議（会議）経過

|         |            |
|---------|------------|
| 開会宣言    | 水産課 岡田副課長  |
| 会議成立の確認 | 水産課 岡田副課長  |
| あいさつ    | 環境農政局 尾塚局長 |
| 傍聴人入場   | 傍聴希望者なし    |
| 議事進行    | 水産審議会 井貫会長 |
| 審議      |            |

## 会議資料

別添のとおり

## 令和7年度神奈川県水産審議会議事録

### ◎ 議事

#### 審議の議題及び結果

##### (1) 審議事項

- ・令和8年度栽培漁業実施計画（案）について  
（案）のとおり承認された。

##### (2) 報告事項

- ・令和8年度予算について
- ・漁協の合併について
- ・海業推進の取組について
- ・相模湾での藻場再生の取組
- ・令和7年度地域課題対策費を活用した地域水産業の振興

##### (3) その他

### ◎ 結果

#### (1) 審議事項

- ・令和8年度栽培漁業実施計画（案）について  
仲手川漁業調整・資源管理グループリーダーから、資料1により説明。

### ○ 堀井委員

3点ほど質問をさせていただきます。

1つ目は、サザエについて、漁獲量が減り資金が不足して放流ができなくなったので、数が減ったという御説明でしたが、栽培漁業のそもそもの目的として、漁獲量が減らないように、支えていくことがあると思います。その点、若干矛盾しないかお伺いしたいのが1点です。

あとの2点は、ともにトラフグに関してのものです。

数年前この審議会で、神奈川県のカラシナギサでトラフグはまだ歴史の浅い魚種で、天然魚でいうところのナーサリーに関する知見が非常に乏しいので、調査が必要ということをお願いしたかと思っております。まだそれらは進んでおらず、関東周辺でトラフグの着底

が見られるのは、東京都の葛西臨海公園周辺ぐらいで、相模湾の方ではまだ見つからないと思いますが、相模湾と東京湾に放流されるというところで、放流適地に関する知見が、どこまで進んでいるか、あるいは今後どう進められるかをお伺いしたいのが2点目です。

3点目としては、東京湾を中心にトラフグの遊漁が近年、非常に盛んになっており、ここで獲られている中には、栽培漁業で放流した魚も含まれていると思います。遊漁も非常に重要な産業なので、否定するわけではないし、神奈川県水産技術センターが、遊漁船と協力して、トラフグの産卵場などを突き止めたりして非常によくやられていると思います。

一方でやはり遊漁と漁業との調整が、問題になるかと思っております。千葉県はすでに遊漁船上限5匹の自主規制をされています。千葉県の遊漁船のホームページを確認すると、県が調整して自主規制を進めているという記述があります。神奈川県の場合、行政としてトラフグの遊漁の問題にどのように取り組んでおられるかをお伺いしたいと思います。以上、トラフグ2点と、サザエの1点でございます。よろしくお願いいたします。

#### ● 仲手川漁業調整・資源管理グループリーダー

1点目のサザエについて、今資金がなくて放流量が減っていますが、支援体制について、県でも市町に呼びかけて、適切な数の放流ができるよう徐々に回復していきたいと考えています。現状では30万個ですが、いろいろな働きかけを通じて60万個まで戻していきたいと考えています。

トラフグの遊漁との調整の件は、神奈川県としても千葉県などの関係県と意見交換をしています。現状では神奈川県では規制等はありませんが、今後、神奈川県内遊漁船業者にアンケート調査などを実施して、どんな取組ができるか千葉県等とも連携しながら、進めていきたいと考えています。

#### ● 石井企画研究部長

放流適地につきましては、先ほどお話がありましたように、葛西臨海公園が適地ということで、その水族館の方と水産技術センターで、トラフグの稚魚を調査しております。それ以外の東京湾、相模湾地区については、現在、まだ適地は見つかっておりません。引き続き、天然資源の増減について、東京湾を含め臨海公園の砂場の量から把握していくという取組を続けていきたいと考えております。以上でございます。

#### ○ 高橋委員

トラフグについては、本来遊漁船に獲らせるために導入したものではないんです。

太平洋南海域栽培漁業推進協議会っていうのがあります。私が会長を務めており、トラフグを放流する件については、一番初めに下関から順に北上して放流していきます。その

中で伊勢湾を中心に、静岡、愛知、三重県で放流の要望が出た。神奈川県でも隣で放流するなら、うちでも放流してほしいと要望を出しました。ところが、その時はまだトラフグを放流する十分な尾数を生産していなかった。そのため神奈川県の手前で止められる。それでも3年ぐらい要望を出し続けていた。事務局の海づくり推進協議会でお願いをして、やっと放流することになって、神奈川県では長井に放流を一番初めにしました。その時に、遊漁船には釣らせないでくださいというお願いをしたんですが、やはり魚がいれば、遊漁船業者も遊漁者も釣ってしまう。遊漁船業者にトラフグを捌く免許の講習をしてくれと遊漁者が言うようになってしまった。

ただ、神奈川県はトラフグに関する県からの指導は今のところありませんね。やっと2年ぐらい前から長井に放流しても、相模湾西部にも、わずかですがトラフグが入網するようになりました。

私は遊漁船の否定はしませんが、生産者がいるということなら、県の指導で、遊漁船でのトラフグの採捕をある程度諫言していただければと考えております。以上です。

● 仲手川漁業調整・資源管理グループリーダー

先ほど申しましたが、遊漁船団体に対して、アンケート調査等を行った上で、どのような規制ができるかの話し合いをしていきたいと考えています。

○ 井貫委員

その他、御意見がないようですので、本計画（案）については、了承するというところでよろしいでしょうか。

○ 委員一同

異議なし。

(2) 報告事項

・令和8年度予算について

西田水産指導グループリーダーから、資料2により説明。

○ 田口委員

県営漁港と市営漁港の整備でだいたい16億円ぐらいで、令和8年度の当初予算25億なので、ここがほとんどという理解でよろしいですか。

● 大場漁港グループリーダー

そのとおりです。

- 田口委員  
ありがとうございます。
  
- 浪川委員  
市町営漁港の整備というのは、これは県の補助分ということですか。
  
- 大場漁港グループリーダー  
はい。国庫補助分と県の補助分になります。
  
- 浪川委員  
分かりました。ありがとうございます。

## (2) 報告事項

### ・漁協の合併について

菘宮水産指導グループ副技幹から、資料3により説明。

- 田口委員  
もうすでに大磯、二宮、みうら、三和、湘南というように、漁協が合併して誕生しています。この4漁協は経営体質を強化するという目的だったと思いますが、それがきちんと果たしているのでしょうか。  
組織が合併すると、大体10年間は一つの組織になりきれなくて、その間に、職員と組合員の間のズレみたいなものが出てきたり、不祥事も起きやすい時期です。経営理念や目標がないと一つになり切れなくて、かえって上手い経営にならないことが多いのですが、そこら辺はどういうふうに乗越えているのかなと思ってお聞きしました。
  
- 菘宮水産指導グループ副技幹  
仰る通り、なかなか合併当初は、難しいところがあります。大磯二宮、みうらの二つは完全な吸収合併だったので、それぞれ徐々に一つになっていくという形をとっております。  
一方、三和や今回の湘南に関しましては、当初の協議の段階で、それぞれの支所が独立採算という形でやっていくことを、協議して決めてから合併していますので、まだ経営統合といったところに至っておらず、経営強化までは行けてないところがあります。  
ただ、例えば上宮田支所は、既に正組合員が20人を切っている状況だったので、ここで合併しておかなければ、解散していただろうという状況で、本当の意味での経営強化までには少し時間かかるころはございますけれども、県も指導しながら続けていくといった状況でございます。

○ 高橋委員

合併の目的は、経営の合理化、そういう部分で合併するのが本筋だと思うんですけど、現状は悲しいことに、組合員数が足りないんで、とりあえず隣の組合とくっついちゃおうというような感じ。これが最近の神奈川県内の合併です。

ですから、最近では大磯二宮、湘南。この合併で2組合になったわけですけど、その中身は今言ったように、どこかの人数が足りないために、20人以下になった場合には、法定解散せざるをえない。その法定解散を避けるために合併をしているのが現在の実情です。

湘南の組合長、その支所の組合長とも漁連の会議があつて話をしました。合理化とか、経営の向上を目指した合併となると、ある程度経理上の整理をしていかないといけないのですが、悲しいかな、合併した組合、独立採算制なんです。合併とは言っても、中身は合併してない。ですから、職員の給与もみんなまちまち。本来合併したんだから、職員の給与もみんな一緒じゃなければいけないんです。でも中身はそうじゃなくて、中身まで立ち入ってない。だから人数合わせ。本当は漁連の長である私などが責任を持ってきちっとしないとイケないんですけども、合併の話の中でそれをやっちゃうと、資産の持ち方が違うっていうのが出てきちゃう。

これからの話になりますけども、一番今、一緒にならないとまずいかなっていう空気になってきているのは西湘地区です。小田原から福浦までの4組合、組合長が年に2回くらい飲み会をやったり、いろんな会合に出てくるんですけど、もうぼちぼち一緒になった方がいいのかなという話が出てきましたので。もうちょっと時間をかけて、時間をかけすぎても困るんですけど。次にくるのは、おそらく西湘地区。まあ、大磯二宮は合併したばかりですけども、大磯二宮も含めて、合併という話は一番近いのかなという感じがあります。

○ 井貫委員

よろしく御指導おねがいします。他に何かありますか。

○ 田口委員

多分、資産の問題でなかなか進まないところはあると思いますが、例えば事務処理や、作業の共通化みたいのところから一お互い手すきの職員が、他の支所の繁忙期の手伝いに行くとか一少しずつ、自分たちが合理化できるところっていうのを見つけていくしかないのかな、合併した以上は。

## (2) 報告事項

### ・海業推進の取組について

木下水産企画グループリーダーから、**資料4**により説明。

#### ○ 浪川委員

海業の企業とのマッチングっていうのは非常に難しい分野だと思うんですけども、このマッチング交流会で何か成果みたいなものがあったらお聞かせ願いたい。

#### ● 木下水産企画グループリーダー

マッチング交流会も大変盛り上がりまして、観光企業が多いのかなという予測はしたんですけども、他にも鉄道会社、水産物等を取り扱う小売店、食品製造業者、海洋教育とかの教育方面も含めて、多数の民間団体が参加して、漁業者との交流が図られました。その後、マッチングにつながった事例や、現地での再度のマッチング会も行っておりまして、具体的な成果については、民・民でやっていくものなんですけれども、こちらとしても把握に努めて引き続き行ってまいります。

#### ○ 武井委員

漁船クルージング、小田原漁港の方でも取組を進めていただいているかと思うんですけども、今後の方向性として、県の方で何かイメージを持っていらっしゃれば教えていただきたい。

#### ● 原水産課長

こちらの取組につきましては、実施した団体、組織に対しては、評価委員会を県が設置しております。そこで活動内容について、評価をしまして、委員の皆さまから、より収益が上がる形、より良くなれる形で、アドバイスをする場を設けておりますので、小田原の取組につきましても、そういった支援をしてまいりたいと思います。

#### ○ 武井委員

小田原市としても可能性をちょっと感じているので、御支援いただけたらありがたいと思います。よろしく願いいたします。

## (2) 報告事項

### ・相模湾での藻場再生の取組

石井企画研究部長から、資料5により説明。

#### ○ 堀井委員

直接藻場という話でもないのかもしれませんが、昨年、もう10年近く続いておりました黒潮大蛇行が終了して、各地で沿岸生態系にいろんな影響が出ていると伺っております。

藻場について、黒潮大蛇行の終了に伴って、何か影響が出ているかをお伺いしたい。

あと一つお願いになりますが、黒潮大蛇行が発生した後、神奈川県水産技術センターの方で魚類相にどういった変化が生じたかとか、沿岸の生態系にどういった変化が生じたかを非常に丁寧に論文に書いていただいで、我々は今それを参照できる立場にございます。非常に良い研究が行われたと思っておりますので、同様に、今後どういったことが起きるかというのを、大変お忙しいとは思いますが、水産技術センターの果たす役割は非常に大きいと思っておりますので、是非そうした研究をお願いしたいと考えております。以上です。

#### ● 石黒所長

黒潮大蛇行が、今年の春に終息したということで、磯焼け対策の一環として沿岸域での水温のデータを取っているところです。そういった中で、現在分かっているのはやはり冬場の水温がだいぶ下がってきたということで、藻場にとっては非常にいい影響に感じられているところがございます。なので、一部藻場も復活している場所、まだ全体的には少ないんですけども、そういったところが見られます。

また、県内の魚介類等の影響についても、例えば、東京湾のタチウオは、黒潮大蛇行が始まった頃から、増えて非常に漁獲量が多い。この終息でどういう影響が出てくるのかというところも含めて、しっかり注視して、水生生物への影響も含めて水産技術センターとしては状況を把握していきたいというふうに考えています。

#### ○ 堀井委員

よろしく申し上げます。

#### ○ 田口委員

技術のことがよく分からなかったんですけど、早熟カジメを生産されていて、成熟株にすると技術的に難しく、そんなに大量生産できないという理解でよろしいですか。

● 石井企画研究部長

大型株と成熟株の違いについてですが、成熟株は、大型株の葉が成熟して、遊走子、種みたいなものがございますが、これを放出できる状態になった株のことを言います。

大型カジメ株は通常室内の水槽に、春に移してから、夏頃までに約20cm程度まで成長するものをいいますが、成熟株は更に成熟する秋以降まで飼育するというので、その間に、減耗したり、また、全ての大型株が成熟株になるわけではありません。その部分で生産効率が低下しております。以上でございます。

○ 田口委員

ありがとうございました。

先ほどの予算の説明で、1,849万円が磯焼け対策で、その中で中間育成施設を新たに整備されるというお話だったのですが、これが成熟株まで育てるための施設という理解でよろしいですか。

● 石井企画研究部長

はい、お答えいたします。現在、成熟株を育てるために9割ぐらいで、成熟株の量ができるといふふうに仮定しますと、より水槽の数を多くして、大量に大型株を生産し、その中で成熟株を作るために、施設の増強が必要ということで取り組んでおります。

○ 田口委員

了解いたしました。去年は確か4,000万円ぐらいの予算が磯焼け対策であったんですけど、今年はちょっと減額になってるので心配してるところです。

● 木下水産企画グループリーダー

この施設整備が終了したことで減になっておりますので、そのできた施設をもとに、来年度はより推進していく方向でございます。

○ 田口委員

その中から成長が早いとか、そういう優良株をこれから選抜していく予定もあるんですか。

● 石井企画研究部長

それについては、例えば、早熟株を三浦とか小田原とか、いくつかその地域特性に合わせて、その地域のものを生産して、その地域でその株をスポアバッグとか、カジメロープにつけて展開するというのをやっておりますので、まず地域ごとの株で作ることです。選抜というよりは、地域の株をそのまま展開するという方向を今優先してやって

おります。

○ 田口委員

遺伝子プールを残していくみたいな考え方なんですね。

● 石井企画研究部長

はい。

○ 田口委員

最後の質問ですが、今後の取組で暖海性藻類について言及されていましたが、これは相模湾のものを探すということですか。

● 石井企画研究部長

はい。現在、調査している中でホンダワラ類とか暖海性の海藻類が一部、成長しているという調査結果がございます。海水温が上昇していく中で、それに適した海藻も検討していかなければならないということで、今後取り組んでいきたいというふうに考えております。

○ 田口委員

ありがとうございます。

○ 高橋委員

写真4が小田原ということになっております。多分私の地元の海なのかなと思っています。これについては、県の技術センターまた小田原市から、御支援、御指導を受けて、やっとここまでになりました。本当にありがとうございます。まず、お礼を言いたいと思います。

それと、いい場所と悪い場所というと、おかしいんですが、差があるんですよね。小田原の江之浦港は、防波堤釣りのお客さんが相当来ます。防波堤釣りで餌を撒くために、メジナとかブダイとか食害をする魚が相当多い。そのために港の防波堤の近くにやったものっていうのは、食害ですぐダメになる。防波堤から離れたところはこういう結果が出ている。なのでその辺も今度は配慮しながらやったらどうかなっていうのと、まあお陰様で来年度、やっと組合の青年部がその気になって、全員で藻場の再生に取り組もうということで、組合の中で事業計画を立てつつありますので、今まで以上の御支援、御指導をお願いしたい。ありがとうございます。

(2) 報告事項

・令和7年度地域課題対策費を活用した地域水産業の振興  
湘南地域県政総合センターから、資料6提供。説明省略。

○ 意見・質問なし

(3) その他

○ なし

以上